

# 博士課程教育リーディングプログラム 平成29年度プログラム実施状況報告書

|         |                                      |               |       |
|---------|--------------------------------------|---------------|-------|
| 採択年度    | 平成25年度                               |               |       |
| 機関名     | 名古屋大学                                | 全体責任者（学長）     | 松尾 清一 |
| 類型      | 複合領域型（多文化共生社会）                       | プログラム責任者      | 高橋 雅英 |
| 整理番号    | S02                                  | プログラムコーディネーター | 東村 博子 |
| プログラム名称 | 「ウェルビーイング in アジア」実現のための女性リーダー育成プログラム |               |       |

## <プログラム進捗状況概要>

### 1. プログラムの目的・大学の改革構想

本プログラムは、多文化共生に資するウェルビーイング（豊かな生活を実現し権利を保障する）をアジアで実現するために、異文化相互理解に立脚した国際性と使命感を兼ね備えたグローバルに活躍できる女性リーダーを育成することを目的とする。アジアの中で、ウェルビーイングの実現に密接に関わる食（量的確保と安全）、環境（衛生）、健康（医療、福祉）、社会（脱貧困）、教育（次世代育成）における諸問題を、医学・保健学・農学・国際開発学・教育学の各分野で獲得した高度な専門性を活かし、グローバルな視点で意志決定できる女性リーダーの育成を図る。アジアにおける“ウェルビーイング”の実現には、多様な文化への理解と尊重が不可欠である。一方で、多くのアジア諸国で問題となっている高い乳幼児死亡率（日本の約数十倍）などの共通課題は、食や健康、環境、教育、社会システムの各分野における専門的な「知」を結集し、アジアの文化を理解・尊重できる専門家によって解決すべき課題であり、個別の学問領域では解決しえない課題へのグローバルな視点でのアプローチと課題解決を可能とする人材を育成する。

### 2. プログラムの進捗状況

本プログラムは、平成26年度から正規履修生を採用し、現在1期生16名(D3)、2期生14名(D2)、3期生14名(D1)、4期生16名(M2)が在籍しカリキュラムに従った活動を行っている。平成30年度も5期生の採用に向けて各部局での説明会を実施した。本プログラムでは、M1で海外実地研修1として東南アジアの国を訪問し、学生の専門分野からの観点からアジアの問題点を理解すると共に、他分野の学生との議論を通して分野を超えた広い視野を持つ学生の育成に努め、D1で海外実地研修2として、それぞれの専門分野に根ざした研究計画を基に東南アジアの国を訪問して問題の解決に向けた提言を行う。1期生、2期生が海外実地研修2までのカリキュラムを終え、当初の期待以上に学生の意識の変革が見られ、高度な専門性に根ざした広い視野を持つ人材が育っている。インターンシップも順調に進行し、UNFAO, UNICEF, JICA等の国際機関に毎年4-5名の学生を派遣してきたが、これを経験した学生は専門分野で国際機関で働くことに自信がうかがえるようになっており、高い教育効果が認められ、プログラム全体としても内製化を含め順調に成果が上がっている。